

ISO認証支援コンサルティングで実績を誇る 株式会社 コムコンサ

製造業にとって信頼性を高める国際規格である、品質マネジメントシステム ISO9001、環境マネジメントシステム 14001 など、ISO 認証を支援するためのコンサルティングを行っているのが株式会社コムコンサだ。

代表取締役の阪下恭司氏は自らも鉄工所経営を行っているため、自身の経験を活かしたアドバイスが好評で、ISO 認証支援コンサルティング実績は 100 件以上に登る。

また、ISO 主任審査員として 640 件以上認証審査を実施するなど、ISO 認証のスペシャリストとして活躍する。

品質管理から危機管理へ時代は変化 ISO22301認証を推進

ISO 認証審査や支援のため全国各地を飛び回る阪下氏。年間 120 日は出張しているほどだ。最近では事業継続マネジメントシステム ISO22301 (BCMS) の認証を薦めている。

「2001 年 9 月 11 日、米国で同時多発テロ事件が発生しました。この事件当時、倒壊したニューヨークの世界貿易センタービルのテナント各社のうち、『BCMS』を導入していた企業は継続対策や復旧対策を活用し、3 日から 1 週間で事業を再開することができたのです。それから『BCMS』の有効性に注目が集まりました。一方、日本では 1995 年 1 月の阪神淡路大震災で神戸新聞社は京都新聞社で印刷して休刊を免れました。これも危機管理を行っていた結果です。その後も、2004 年 10 月の新潟県中越地震、2007 年 7 月の新潟県中越沖地震、2011 年 3 月の東日本大震災、7 月にタイにおける水害発生など、企業活動を停止せざるを得ないような災害が多発しています。今後もその可能性はゼロではありません。全く予見できない事象からでも人命・企業・組織を守り、供給者責任を果たすためのマネジメントシステムが『BCMS』なのです。」

「BCMS」は英国規格 BS25999-2 として 2007 年に認証規格となり、2012 年 8 月 ISO22301 として国際規格に生まれ変わった。

「私は中小企業の皆様にぜひこのシステムを構築していただきたいと思っています。それが事業継続にとっても重要な役割をもつと確信しているからです。」と阪下氏は語る。

営業マンから鉄工所経営へ バブルを乗り越え中小企業診断士に

明るい雰囲気でお話し上手な阪下氏。もともとは高級食品の輸入販売会社で営業職をしていた。「祖父が元々鍛冶屋で、父は高校の教師をしていたんです。父からは『自分の道を進んだらいい』と言われていたのでサラリーマンになりました。その後、定年間際になった父が貸工場で鉄工所を始めたんです。私もサラリーマンで働くより、何か商売がしたいと思ったので 1982 年から一緒にやることになりました。その後、バブル景気の中で法人化し、従業員が入り、小さいですが工場も新設しました。」

順調に業績を伸ばしたものの、1991 年のバブル景気崩壊の時は苦しかったと振り返る。「急に仕事が減少したのですが、その時は一時的なものとして楽観していました。受注がないため、材料などの仕入れがないのに手形は現金化して手元に現金が余っているものですから、お金も時間もある状態。そこで、初めての社員旅行をすることに。ニューヨークへ行ってハーレムでジャズを聞くなどいろいろと楽しかったのですが、戻ってきたら全く仕事がない上に、銀行から入金催促がある毎日。天国から地獄へ突き落とされた気分でした。」

その後、いろいろなことに手をつけたがなかなかうまくいかなかったという。なんとか人生をリセットしようと中小企業診断士の勉強を始めた。

「周りで学んでいる人たちは大手電器メーカーの品質管理の方や銀行の方など、向上心の高い人たちが多かったことも刺激になりました。仕事終わりの土日の時間をやり繰りして週 30 時間勉強していました。大学時代に経済を学んでいたこともあり、中小企業診断士の勉強はおもしろかったですね。楽しかったというより、厳しい現実から逃避したいという気持ちもあったと思います。」

そして、4 年後中小企業診断士（鉱工業部門）に合格した。最初は中小



コンサルティングでのセミナー資料。ポイントをわかりやすく指導している



勉強が仕事の仕入れになっている。企業の社会的責任である CSR の構築もライフワークのひとつとして活動している

企業診断士の学校の紹介や仕事関係の方からの相談を受けるようになり、工場診断やアドバイスを始めた。



ISO審査員、ISO認証コンサルティングを開始

工場診断などを行ううちに、ISO に関する相談が増えていたため、2000 年に ISO 審査コースを受講した。「5 日間 40 時間みっちりの講義で、さっぱり理解できず『場違いな所へ来てしまった』と後悔しました。しかし、試験に落ちたら数十万円がパーになってしまいます。まだまだ会社が厳しい時期だったので死に物狂いでしたね。」

合格後、ビューローベリタスジャパン審査員に登録し、その後は品質・環境・労働安全衛生の主任審査員として現在に至る。

「さまざまな企業の経営者の方にインタビューでき、工場や会社を見ることができると、仕事＝勉強という大変幸せな仕事に巡り合えました。たくさんのご縁から、現在につながっていると思います。」

「ひとつひとつのご縁を大切に、お客様に貢献していきたい」という気持ちが ISO 認証支援の原動力になっている。

ISO新システム認証支援や ISO改訂に対応するセミナーを開催

ISO9001:2008、環境マネジメントシステム ISO14001:2004 が 2015 年に改訂され、労働安全衛生マネジメントシステム OHSAS18001 が ISO 化される。これにともなって本社ではセミナーを行っている。

「2000 年以降急速に増え続けた ISO 認証取得企業は、現在そのカーブが下り坂になっています。システムが有効に活用されているかが見えにくく、企業の成長、つまり利益につながっていることがわかりにくいことが原因と思われる。ISO の改訂や新システムが規格される 2015 年は、企業のシステムとして品質、環境、労働安全衛生が並行してあるのではなく、事業継続やコンプライアンスも含めた総合的なリスクマネジメントシステムを構築する絶好の機会と考えています。この機会に認証を考えたいという企業様のサポートをしていきますので企業単独でも、業界団体等でも出張セミナーを開催させていただきます。」

また、阪下氏はバランススコアカード (BSC) 導入の指導も行っている。バランススコアカードとは戦略的な経営のためのマネジメントシステムで、ビジョンと戦略を明確にすることで財務数値に表される業績だけでなく、財務以外の経営状況や経営品質から経営を評価するため、バランスのとれた業績の評価が行えるようになる。その結果、従業員は日々の業務がどのように目標達成に影響するのかを意識でき、経営陣は視覚的、実質的に目標達成までの道筋を管理することができるようになる。

「ほとんどの経営者の方が人材育成に悩まれています。組織はピラミッド型になっていて、その中で人材が育成されなければいけません。プレーヤーからプレイングマネージャー。そしてマネージャーと育っていくのが理想です。しかし、グループリーダーや班長、係長、課長、部長という肩書きはあるけれど、その仕事ができない、できないというより知らない会社もあります。そのためにピラミッド型ではなく、文鎮型という企業がよくあります。ですから、今後はもっとリーダーを育成する研修や ISO マネジメントシステムにバランススコアカード (BSC) を取り入れた提案をして、よりよい会社になってもらうお手伝いをしていきたいと思っています。」

株式会社コムコンサ

代表取締役 阪下 恭司

〒577-0061
大阪府東大阪市森河内西
1丁目30番24号
TEL : 06-6618-6667
FAX: 06-6789-5889
http://www.comcons.co.jp/



【事業概要】ISO9001、ISO14001、ISO22301、ISO10002、OHSAS18001、プライバシーマーク認証支援、ISO規格解説、内部監査員養成、管理職養成、ヒューマンエラー対応、BSC (バランススコアカード) 導入等の指導、品質管理、生産管理、販売管理手法の導入、CSRシステム構築支援